

なるほど!

院内一丸で 感染症対策

「感染症発生をみんなで食い止めよう!!」 院内全体でチェンジ・チャレンジ

ご高齢の患者さんが多い日浦病院では、感染症発生は重大な問題です。発生をなんとかくい止めることはできないか。ICT(感染防御チーム)および栄養管理部をはじめ、院内がひとつになって対策に取り組んだ結果、目標を達成することができました。



医療法人 外海弘仁会 日浦病院

地域の安心と、暮らしを守る医療・福祉を提供します

昭和42年(1967年)に、長崎県長崎市内に開院。高齢者に優しい病院を目指してChange・Challengeを尊重。質の高い医療・介護を追求する。診療科目：内科・外科・整形外科・脳神経外科・皮膚科・リハビリテーション部 病床数：199床

ICT(感染防御チーム)を設立し職員の意識をチェンジ

病院での感染症発生は、院内全てを巻き込む一大事。病室隔離ともなれば、患者さんの精神的、身体的負担に加え職員の業務負担も大きくなります。そこで日浦病院では、対策が急務となった平成27年4月に多職種からなるICT(感染防御チーム)を設立。「例年のように感染症が発生してから対処する形では集団感染や、現場の人員不足につながる混乱が起きる恐れがある。やはり予防が大事」との考えがまとまり、病院全体が動き始めました。

栄養管理部は「ウイルス予防強化期間」にチャレンジ

こうした流れを受けて、栄養管理部でも翌平成28年から新しい取り組みを開始しました。まずは、毎月1回昼食時に菓膳料理と雑穀米を提供する試みです。また、平成28年12月から平成29年2月までの3か月間は「ウイルス予防強化期間」として、毎朝食時に乳酸菌飲料を提供。そして毎月1回は、手づくりした甘酒を夕食時に提供する試みも始めました。こうした栄養管理部の取り組みと従来からの感染防止委員会の活動によって、平成28年の冬季は、感染症の発生を見事にくい止めることができました。さらに、続く平成29年は乳酸菌飲料を本格的に導入。発生件数ゼロを2年連続で達成しました。



一連の取り組みは
ポスターにして院内に掲示。
院内全体の意識が
いっそう高まりました。

栄養管理部
からひとこと

「患者さんに食べる楽しみと生きる喜びを感じていただけるよう
常にチェンジ・チャレンジ精神で取り組んでいます」

※感染防止委員会や栄養管理部以外の部署でもさまざまな対策を実施しています。

日浦病院のさまざまな感染対策

病棟での取り組み

入院患者さんへのお見舞いとして生モノをお持ちにならないように、スタッフが入念にチェックしています。ご家族への注意喚起を数年前から実施していることもあり、持ち込み件数はかなり少なくなってきました。

病棟と栄養管理部の連携

当院では、各病棟ごとに担当の栄養士がいます。栄養士が病棟の状況を把握でき、病棟看護師と担当栄養士の間に、気軽に相談できる関係ができています。



職員の体調管理

薬膳や甘酒は、職員にも提供。乳酸菌飲料は売店で販売し、職員にも意識的な体調管理を促しています。朝から感染症の兆候がある場合には出勤を控えるなどの指導も徹底して行っています。



給食運営委員会での検討

薬膳料理や乳酸菌飲料の提供などは、給食運営会議での検討を経て実施され、会議には、院長先生も参加しています。



「今後も栄養分野ならではの感染予防策を続けます」

乳酸菌飲料に最初に着目したのは、院長先生でした。今回、内側から免疫力を上げることの大事さを感じました。乳酸菌飲料は高齢者にも飲みやすい風味で、毎日飽きずに飲んでいただくことができました。これからも、栄養部門ならではの分野で感染予防策を行い、患者さんのQOL向上に努めていきます。



日浦病院 栄養管理部長
大井 ゆきこ管理栄養士

「腸内環境の大切さをあらためて考えさせられました」

近年、腸内環境が話題となっています。いろいろな病気や免疫力、ひいては脳との関係にも注目が集まっていますが、今回の取り組みを経て、腸内環境の大切さをあらためて考えさせられているところです。大事なのは続けること。乳酸菌を含む飲料は、院内の対策として継続しやすいと感じています。今後も続けていきたいですね。



日浦病院 日浦 剛院長

なるほど!メモ

さまざまな機能低下で感染症にかかりやすい高齢者

高齢者は、加齢にともない身体のさまざまな機能が低下します。免疫力も低下し、感染症にかかりやすくなります。また、感染症にかかると重症化しやすく、全身状態の悪化や生活の質の低下を招くことがあります。そのため、高齢者が集団で生活する施設では、健康管理の中でも特に感染のリスクを減らす取り組みが大切です。

